

米国 残高の減少基調が続く（09年5月消費者信用残高）

発表日：2009年7月9日（木）

～雇用環境悪化で年内は減少基調が続こう～

第一生命経済研究所 経済調査部

近江澤 猛(おおみさわ たけし)

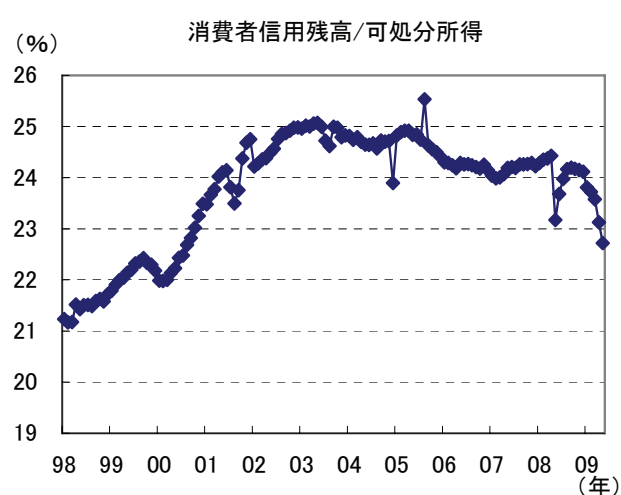
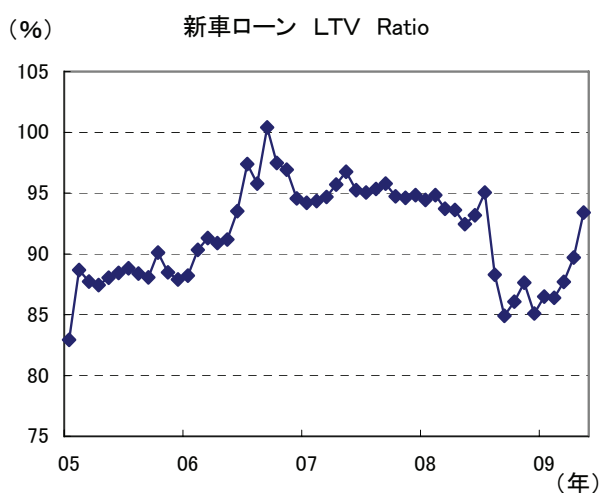
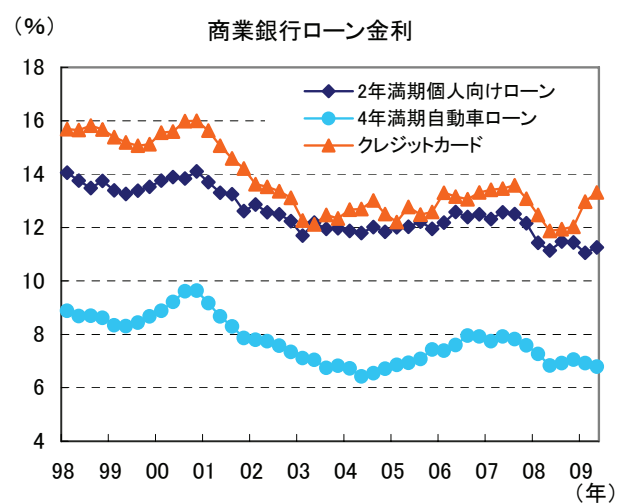
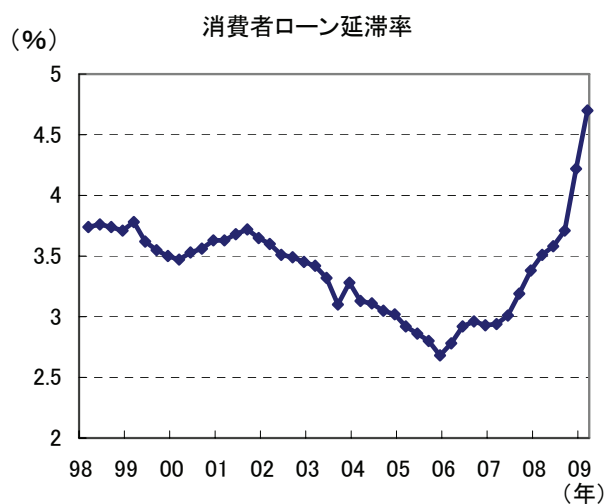
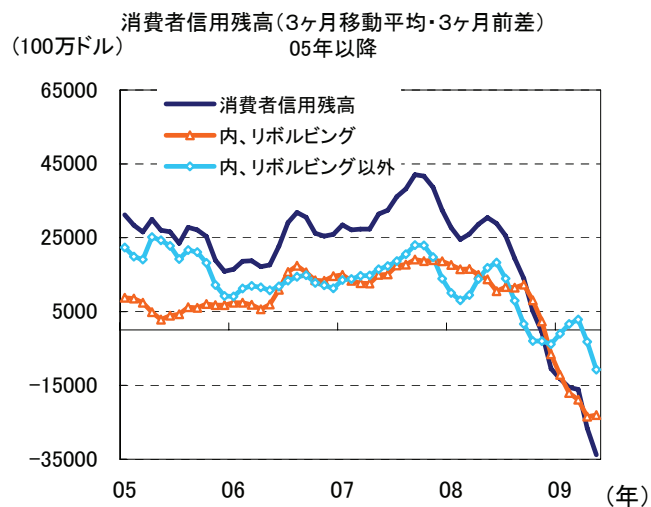
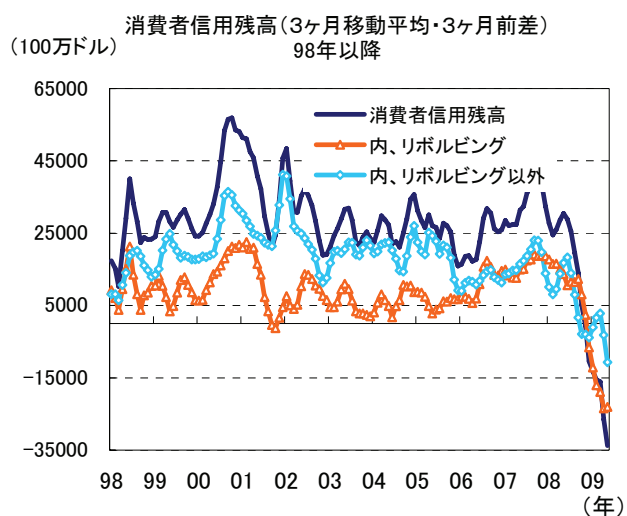
03-5221-4526

- 09年5月の消費者信用残高（季節調整済）は2兆5196億ドル、前月差▲32億ドル（前月比年率▲1.5%）と、前月同▲165億ドル（同▲7.8%）から減少幅は縮小したが、4ヶ月連続の減少となった。本統計は月次での変動が大きいことから3ヵ月移動平均・3ヵ月前差でみると▲338億ドルと、前月同▲266億ドル、前々月同▲161億ドルから減少ペースは加速している。雇用環境の悪化が続き、消費者ローンの延滞率が上昇を続けていることから、消費者信用は増加し難い状況にあるとみられる。
- 内訳はリボルビング（クレジットカード等）が前月差▲29億ドル（前月比年率▲3.7%）と前月同▲87億ドル（同▲11.1%）から減少幅は縮小した。リボルビングの減少は8ヵ月連続で統計の遡れる1968年以降で最長である。リボルビング以外（自動車ローン、モービルホームローン、教育ローン等）も自動車の値引き販売や自動車ローン会社のローン金利引き下げにより下支えされ、同▲4億ドル（同▲0.3%）と前月同▲78億ドルから大幅な残高の減少は避けられている。
- 消費者信用残高の可処分所得（年率）に対する比率は22.72%と前月23.12%、前々月23.58%から急速な低下を続けており、家計のバランスシート調整が続いている様子が窺える。
- 先行きの消費者信用残高だが、金融機関の業績悪化に歯止めが掛かり始めたことから、消費者向けローンの融資基準の厳格化度合いや貸出意欲はやや改善されているが、依然として厳しい状況にあることは変わらない。また、雇用環境の悪化から消費者ローンの延滞率が急上昇している状況で、借入、貸出の両面から消費者信用は下押し圧力が続いている。そのため、雇用環境の悪化が続くとみられる年内は、消費者信用残高の減少基調が続くとみられる。

	消費者信用残高(10億ドル)			リボルビング(10億ドル)		リボルビング以外(10億ドル)	
		前月差	前月比年率(%)		前月差		前月差
08/06	2574.1	8.6	4.0	965.8	2.8	1608.3	5.8
08/07	2581.8	7.7	3.6	972.1	6.3	1609.7	1.4
08/08	2575.8	▲ 6.0	▲ 2.8	974.2	2.1	1601.6	▲ 8.1
08/09	2582.8	7.0	3.3	976.8	2.6	1606.0	4.4
08/10	2578.1	▲ 4.6	▲ 2.2	974.0	▲ 2.8	1604.2	▲ 1.8
08/11	2568.8	▲ 9.3	▲ 4.3	968.3	▲ 5.7	1600.5	▲ 3.6
08/12	2562.0	▲ 6.8	▲ 3.2	960.9	▲ 7.4	1601.1	0.5
09/01	2566.2	4.2	2.0	959.2	▲ 1.7	1607.0	6.0
09/02	2555.0	▲ 11.2	▲ 5.3	947.7	▲ 11.5	1607.3	0.3
09/03	2539.4	▲ 15.6	▲ 7.3	939.6	▲ 8.1	1599.8	▲ 7.5
09/04	2522.9	▲ 16.5	▲ 7.8	930.9	▲ 8.7	1592.0	▲ 7.8
09/05	2519.6	▲ 3.2	▲ 1.5	928.0	▲ 2.9	1591.6	▲ 0.4

（出所）FRB(連邦準備制度理事会)

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。



(出所)FRB(連邦準備制度理事会)